

曲 目 解 説

西高OBオーケストラへようこそおいで下さいました。今年は少し趣をかえまして、前半新世界、後半威風堂々とマイスターというプログラムを組んでみました。よろしくおつきあいのほどお願いします。

× × × × ×

さて新世界ですが、今を去る…え〜と……17年前、私が初めてオーケストラで吹いたのが、この曲でした。昭和48年8月西高オーケストラ第4回定期演奏会。指揮 加藤信三。ひたすら暑い夏でした。当時、今指揮している小林君はホルンを、チェロの岩佐君はパーカッションを、ヴァイオリンの山本君はトランペットを吹いておりました。そしてオーボエの私のとなりは今日の通り中田昌樹氏、……とにかく吹けないのにトップにすわられ、ひたすら情熱だけで吹いていたという記憶があります。いってみれば新世界は、私のオーケストラ生活の原点でありました。ですから、ソロの所だけではなく、一音一音テューティの中の音でも、楽譜なしで覚えています。それほどの思い入れで、今日またこの曲をOBオーケストラで再演できる事は、望外の喜びであります。……なんてかたい事を言っても全然にあいせんね。

第一楽章冥想と情熱。チェロの美しい序奏と第二主題フルートの低音をよく味わってお聴き下さい。中間部でピッコロが一声だけ鳴きます。どこか分かったらたいしたものです。第二楽章望郷。あまりにも有名なイングリッシュホルンの旋律。オーボエととっかえひっかえ楽器を持ち替え、大汗かいて吹いているのは私です。中田氏がオーボエもイングリッシュホルンもソロを吹かない、と日^ひと^とだったので、こういう仕様とあいなりました。多少のミスは聴かなかった事にして下さいませ。私としては、この楽章の有名な旋律より、中間部の嬰^ひ短調の所の方が好きです。特に途中秘かに登場するコントラバスのピチカートには、ゾクゾクするものがあります。再現部のヴァイオリンとチェロのデュエットも聴きものです。第三楽章舞踊の狂乱。はつきりいって一番止まりそうな楽章です。リズムの狂いは頭で修正し、心眼ならぬ心耳で、ひたすら正確な音楽を思い描きましょう。この楽章大変心配です。第四楽章戦闘と勝利（敗北だったりして）ジョーズが出てきそうな序奏からトランペットの戦闘的な第一主題（ここでトランペットが息たえます）たった一発のシンバルに導かれたクラリネットの清らかな第二主題（クラリネットも息をひきとりませ）次いで、一楽章から四楽章までの全てのテーマが出揃う展開部のあと（ここで、死屍累々です）曲は華麗に終わります。ここまで何人残っているやら。

× × × × ×

後半の2曲は、紙数が尽きたので簡単に。エルガーの威風堂々は、ブリティッシュマーチの粋といえましょう。崇高で広大な第二主題を聴きながら、ウェストミンスター寺院での王族の結婚式^{ロイヤル ウェディング}を思いうかべて下さい。マイスターは、それとは対象的なドイツ庶民の結婚式です。各々の楽器が一度はソロで活やくします。新婚の中田氏の為に、この2曲を最後に選んでみました。

それでは、今夜の3曲最後までじっくりお聴き下さい。それにしても、今回はずいぶん自分の思い入れを書いってしまった。また同期の奴等^{やつら}にブツブツ言われるかなあ……………